

事例番号:270174

## 原因分析報告書要約版

産科医療補償制度  
原因分析委員会第六部会

### 1. 事例の概要

#### 1) 妊産婦等に関する情報

1 回経産婦

#### 2) 今回の妊娠経過

妊娠 13 週:臍帯ヘルニア 19mm

妊娠 26 週:臍帯ヘルニア以外に胎児奇形なし ヘルニアの内容物は腸管

妊娠 32 週:臍帯ヘルニア 4-5cm

#### 3) 分娩のための入院時の状況

妊娠 34 週 2 日 10:15 陣痛発来、破水のため入院

#### 4) 分娩経過

10:20 車椅子で分娩室入室、分娩監視装置装着

10:25 子宮口全開大 胎児心拍数 60-70 拍/分

10:37 経膈分娩、頭位

胎児付属物所見 臍帯巻絡 1 回(躯幹)

#### 5) 新生児期の経過

(1) 在胎週数:34 週 2 日

(2) 出生時体重:3124g

(3) 臍帯動脈血ガス分析値: pH 7.17、PCO<sub>2</sub> 62mmHg、PO<sub>2</sub> 2mmHg、  
HCO<sub>3</sub><sup>-</sup> 21.7mmol/L、BE -5.6mmol/L

(4) アプガースコア:生後 1 分 8 点、生後 5 分 9 点

(5) 新生児蘇生:気管挿管

(6) 診断等:臍帯ヘルニア、ヘックウイス・ヴァーデマン症候群疑い  
生後 6 日 臍帯ヘルニア修復術

生後 7 日 総ビリルビン 18.2mg/dL、高ビリルビン血症のため光線療法(1 日間)

生後 1 ヶ月 14 日 1 ヶ月健診、体重増加不良、神経反射異常なし

生後 3 ヶ月 両鼠径ヘルニア等の手術施行

手術終了・抜管直後に痙攣発作あり、セルソで頓挫

術後 3 日、経過良好、退院

生後 4 ヶ月 健診で頸定なし、発達の遅れを指摘

1 歳 6 ヶ月 中枢性協調運動障害の診断

2 歳 4 ヶ月 不随意運動(アトーゼ)優位な混合型脳性麻痺

4 歳 遺伝子解析検査でベックウイス・ウィーテマン症候群(BWS)の確定診断

#### (7) 頭部画像所見:

出生当日 頭部超音波断層法で頭蓋内に異常を認めず

生後 1 歳 9 ヶ月 頭部 MRI で脳梁体部から膨大部は低形成、左海馬は対側より round な形態であり、対側よりやや小さく描出される、両側淡蒼球は T2WI、FLAIR で軽度信号上昇、その他シクエンスでは明らかな信号変化なし、髄鞘化は月齢相応、両側大脳周囲の軽度くも膜下腔拡大は月齢を考慮すると異常とは言えない、主要動脈の flow void に異常なし

#### 6) 診療体制等に関する情報

(1) 診療区分:病院

(2) 関わった医療スタッフの数

医師:産科医 3 名、小児科医 2 名、看護スタッフ:助産師 4 名

### 2. 脳性麻痺発症の原因

(1) 脳性麻痺発症の原因は特定できないが、ビリルビン脳症の可能性はある。

(2) ベックウイス・ウィーテマン症候群(BWS)による先天性要因が関与した可能性も否定できない。

### 3. 臨床経過に関する医学的評価

#### 1) 妊娠経過

妊娠中の管理は一般的である。

2) 分娩経過

分娩時の管理は一般的である。

3) 新生児経過

新生児の管理は一般的である。

**4. 今後の産科医療向上のために検討すべき事項**

1) 当該分娩機関における診療行為について検討すべき事項

なし。

2) 当該分娩機関における設備や診療体制について検討すべき事項

なし。

3) わが国における産科医療について検討すべき事項

(1) 学会・職能団体に対して

BWS の病態、臨床像の解析が求められる。

(2) 国・地方自治体に対して

なし。